

名前を見て ちょうだい

あまみ きみこ 文
うめだ しゅんさく 絵

① えっちゃんはおかあさんに 赤いすてきな ぼうしを もらいました。

「うらを見て ごらん。」

② そう 言われて、ぼうしの うらを 見ると、青い 糸で 名前が ししゅうして あります。

「う、め、だ、え、つ、こ。うふつ。ありがとう。」

③ えっちゃんは、ぼうしを ぎゅうつと かぶりました。そして、さつそく、あそびに 出かける ことに しました。



④ さて、えっちゃんが 門を 出た とき、つよい 風が ふいて きて、いきなり ぼうしを さらって きました。

「こら、ぼうし、まてえ。」

⑤ えっちゃんは はしりだしました。ぼうしは、リボンを ひらひらさせながら、のはらの 方へ とんで いきます。

⑥ えっちゃんが その のはらに はしって いくと、

赤い ぼうしを ちよこんと かぶった

きつねが 一びき、白い すすきを もって、

プープー 歩いて いました。

「それ、あたしの ぼうしよ。」

⑦ きつねの 頭を ゆびさして、えっちゃんが 言いました。すると、ふりむいた きつねは、すまして こたえました。

「ほくのだよ。」

⑧ 「あたしの 名前が 書いて あるわ。名前を 見て ちょうだい。」

⑨ きつねは、しぶしぶ ぼうしを ぬいて、名前の ところを 見せました。

「ほうら、ほくの 名前だよ。の、は、ら、こ、ん、き、ち。」

⑩ なるほど、きつねの 言う とおり。本当に そう 見えます。

「へんねえ。」

⑪ えっちゃんが もう 一度 たしかめようとした とき、つよい 風が ふいて きて、いきなり ぼうしを さらって きました。

「こら、ぼうし、まてえ。」

⑫ えっちゃんときつねは はしりだしました。

ぼうしは、リボンを ひらひらさせながら、

こがね色の はたけの 方へ とんで いきます。

⑬ えっちゃんたちが その はたけに はしって いくと、

赤い ぼうしを ちよこんと かぶった 牛が 一びき、

青い 空を まぶしそくに 見上げて いました。



「それ、あたしのよ。」

「ぼくのだよ。」

⑬ 牛の 頭を ゆびさして、えっちゃんときつねが 言いました。すると、ふりむいた 牛は、すまして こたえました。

「わたしのですよ。」

⑭ そこで、えっちゃんと きつねは、いっしょに 言いました。

「名前を 見て ちょうだい。」

⑮ 牛は、しぶしぶ ぼうしを ぬいで、名前の ところを見せました。一

「ほうら、わたしの 名前だよ。は、た、な、か、も、う、こ。」なるほど、牛の 言う とおり。本当に そう 見えます。

「へんねえ。」

⑯ えっちゃんと きつねが かおを 見合わせた

とき、つよい 風が ふいて きて、また、

ぼうしを さらって いきました。

「こら、ぼうし、まてえ。」

⑰ えっちゃんと きつねと 牛は はしりだしました。

ぼうしは、リボンを ひらひらさせながら、七色の

林の 方へ とんで いきます。

⑱ えっちゃんたちが、その 林に 入って

いくと、木よりも たかい 大男が、どかんと

すわって いました。そして、ぼうしを

りょう手で もって、ふしぎそうに ながめて

いました。

「それ、あたしのよ。」

「ぼくのだよ。」

「わたしのですよ。」

⑲ えっちゃんと きつねと 牛は、

いっしょに 言いました。

「名前を 見て ちょうだい。」

⑳ すると、大男は、

えっちゃんたちを じろりと

見下ろしました。それから、

あつという間に ばくん。ぼうしを 口の 中に入れました。

そして、すまして こたえました。

「たべちゃったよ。だから、名前も たべちゃった。」

㉑ 大男は、したなめずりを して、じろり じろり 見下ろしながら、

言いました。

「もつと 何か たべたいなあ。」

㉒ 牛が、あとずしりを しながら、ぶつぶつ つぶやきました。

「早く かえらなくっちゃ。いそがしくて、いそがしくて。」

㉓ 牛は、くるりと むきをかえると、風のように はしって

いって しまいました。すると、きつねも、あとずしりを しながら

つぶやきました。

「早く かえらなくっちゃね。いそがしくて、いそがしくて。」

㉔ きつねも、くるりと むきをかえると、風のように はしって

いって しまいました。けれども、えっちゃんは かえりませんでした。

むねを はって、大男を きりりと 見上げて 言いました。



「あたしは かえらないわ。だって、あたしの ぼうしだもん。」

25) すると、えっちゃんの 体から 湯気が もうもうと 出て

きました。そして、ぐわあんと 大きく なりました。

「たべるなら たべなさい。あたし、おこって いるから、

あついわよ。」

26) 湯気を 立てた えっちゃんの 体が、また、ぐわあんと 大きく

なりました。そうして、大男と 同じ 大きさに なって

しまいました。

27) えっちゃんは、たたみのような 手のひらを まっすぐ のばして

言いました。

「あたしの ぼうしを かえしなさい。」



28) 大男は、ぶるっと みぶるいを しました。ぶるぶる

ふるえながら、空気の もれる 風せんのように、しぼんで、

しぼんで、しぼんで、とうとう 見えなく なって しまいました。

29) その あとに、ぽつんと 一つ、小さな 赤い もの。

「あつ、あたしの ぼうし。」

30) ひろって、名前を 見ました。

31) う、め、だ、え、つ、こ。青い ししゅう糸で、

たしかに、そう 書いて あります。

「ああ、よかった。」

32) ぼうしを 頭に のせると、あらら、

えっちゃんは、元の 大きさに なって

いました。

33) それから、えっちゃんは、あつこちゃんの

うちに あそびに 行きました。

